

心の輪11R



『「あっ、トトロの森だ！」という資料を通して、
「自然との関わり方」について考えました！



自分は、「自然を大切にすること」は、「～しない」「～禁止」ということしか考えたことがなかったから、自然にとってプラスにつながることをあることを知った。プラスになることはどんなものがあるか、考えていこうと思った。

この時間を通して、老人や少年は、何かを禁止にするのではなく、「一緒に生きる」、つまり、「助け合いを森としながら生活していこう」という気持ちの面で違っていると分かった。

「自然を大切にしよう」と思って行動していても、自然に対してプラスになることか、マイナスになることか、しっかり考えて、何でも禁止にして自然との関わりを薄くしていこうとするのは良くないと思った。

「自然を大切にすること」とは、自然に対する想いが強い人は、自然に優しく接しているけど、自然に対する想いが弱い人は、禁止などのことを考えているんだと思った。

老人や少年は、自分から進んでしていることだけど、私たちが出した自然を大切にすることの考え方は、無理矢理で強制的になっていると思った。

今日の時間で、「自然に優しくすること」ということが分かりました。でも、優しくするとしても、自然から自分たちが離れていったら、何となく嫌な気分がするから、自然と人間が上手く共生していくことが大切だなと思いました。

自然には、僕たちはしたくなくても「社会のルールだから」と言って守っているだけだけど、自然を心から大切に思っている人なら、また違う自然に対しての考え方をすると分かった。

地球環境保全の意識の高まりとともに、人間生活と自然との調和、共存を目指す考え方が広まっている。今後も、自然の恩恵を享受していくために、私たちはどうすればよいらろう。

コウノトリ野生復帰プロジェクト

かつて日本の多くの地域で見られたコウノトリは、戦後、兵庫県豊岡市など一部の地域でしか見られなくなった。

減り続けるコウノトリを救うため、豊岡市では昭和40(1965)年から人工飼育を始めた。

待望のヒナが誕生したのは、人工飼育の開始から25年目の平成元(1989)年。その後、コウノトリの飼育下増殖が軌道に乗り始めると、コウノトリをもう一度野生に帰すことが現実のものとなってきた。

豊岡市では「コウノトリ野生復帰プロジェクト」を進めている。コウノトリの野生復帰は、単にコウノトリが生息できる豊かな環境を再生、創出するだけでなく、人と自然との関係を再生、創出することを目指すものである。

平成17(2005)年、最初の放鳥が行われ、現在では70羽を超えるコウノトリが豊岡の空を舞っている。



文部科学省資料
『私たちの道徳』P.117より引用

自然を大切にすることの関わり方は、何かを禁止して森との関係を少なくしてしまうけど、自分たちで何か行動して、自然にとって良いことをする関わり方もあるということが分かった。